

国民同胞

発行所
公益社団法人 国民文化研究会
(九州←→東京←→全国)
東京都渋谷区東1-13-1-402
振替 00170-1-60507
電話 03-5468-6230
FAX 03-5468-1470
http://www.kokubunken.or.jp/
E-mail: info@kokubunken.or.jp

月刊「国民同胞」編集部
毎月一回10日発行
購読料 年間2000円

御代替りを前にして思ふこと

—「元号の軽視と皇室敬語の忌避」について—

山内健生

「平成の時代も、あと半年になり
ましたね」「さうですね。何か名
残り惜しいやうな感じがします」
「ラジオをお聞きの皆さんはどう
思はれるのでせう?」「来年にな
ると、もっと名残り惜しく感じる
のではないでせうかね」…

昨秋十一月上旬の昼過ぎ、散髪
中の床屋で聞くこともなく耳にした
ラジオからの声である。ふだんラジ
オは床屋で聞くぐらゐだし、散髪中
のラジオなどこれまで聞き流して来
た。まして軽い調子の音楽番組だつ
た。だが、この時はつい司会者とゲ
ストの会話に聞き耳を立てた。

といふのは日頃のテレビ・新聞(産
経を除き)の報道から「平成」元号
を耳にし目にするとはほとんどな
いに等しいからである(NHKは国内
関連の報道では元号を使ふが娯楽番組や
ドラマでは稀有になったし、民間放送で
は国内事件の報道でも平成を使ふことは

稀だ。朝日・読売・毎日の報道紙面でも
平成にお目に掛かることは滅多にない。
私は昭和五十年代初めから元号制
度に関心を抱いて来た。マス・メデ
イアにおける「元号軽視の先鞭」は朝
日新聞だったと記憶する。かうした
国家の統合に関する問題で、かつて世
上を賑はしたものに卒業式での国歌
斉唱・国旗掲揚があった。それに敢
へて反する動きをして、教委から処
分されたごく少数の教員(共産党員?
に近い確信分子)が処分を不当として
提訴したといふ事案だ(朝日や毎日
それに同調するかのやうに報じた)。
しかし、卒業式に関しては君が代
・日の丸だけでなく、卒業証書の元
号表記をめぐっても、昭和から平成
への改元を契機に、日教組系教員組
合の横車が学校現場にまで及んだ。
当時、私は神奈川県の県立高校に
勤めてゐたのだが、組合は「『平成』
ではいられない!」と書かれたステ

ッカーを配つてゐた。そのステッカ
ーを身につく机の引出しに貼った同
僚がゐたので気がついたのだが、平
成元号を指して「平静ではいられな
い」とは嫌味に満ちた文言であつた。
(昭和天皇崩御の際には、半旗が掲げ
られた国旗掲揚台の台座に「弔意の強
制に反対します」との組合作成の印刷
物が貼られてゐた。出勤の折、それを
目にした私は思はず引つ剥がした。そ
の現物を持つてゐる)

改元翌年の平成二年度、卒業クラ
スの担任だつた。学年担当が集まる
席で学年主任が「卒業証書の年数を
西暦を主としたものにしたらどう
か。校長にも話をしたい」旨を提案
した。一足飛びに西暦にするではな
かつた。私は即座に「そんな必要は
ないですよ」とやんわりとひと言だ
け言つた。それで沙汰止みになつた。
神奈川県の公立高校の入試(学力
検査)では他県と同じやうに受検生
の成績等が記入された調査書が必須
であるが、某市の市立中学校からの
調査書は全て年数表記が「1991
年(平成3年)」(横書き)となつてゐ
た。この時期の市長が住民運動派だ
つたことで、組合の圧力に市教委が
退いた結果だらうと想像した。
かうした元号を軽視するマス・メ
ディアや左派陣営の動きには、国際
化とかグローバル化に対応するとか
といふ尤もらしい理窟が付いてゐる。
それが出版や広告業界に波及する。

(だが、所謂西暦(キリスト暦)が世界
で広く使はれてゐるとしても、世界は
様々で西暦では見えなくなる文化現象
が無数にある(日本の元号制度もその一
つで、国の独立の証である)。さうした世
界の多様な現実を正しく知る努力こそ
が大事なのではないのか。一年の日数
も三百六十五日とは限らないのだ)。

見逃せないのは、右のやうな元号
を避ける表の理由の裏に、天皇を齊
しく仰ぐことによる日本国家の歴史
的な統合(「憲法第一条」の来歴)を
受け容れたくないとする情念がある
ことである。元号に関していち早く
冷淡になつた朝日新聞は、平成五年
六月の社説に「(敬語の簡略化が進ん
でいる)から」皇室報道における敬称
や敬語はできるだけ減らしていくの
が、歴史の流れに沿う行き方である
と記して、極端なまでに敬語を
省いた皇室報道でも先鞭をつけた。
そして国語表記の伝統に反した奇妙
な記事を平然と掲げ続けてゐる。国
語の破壊だが、「歴史の流れに沿う
行き方」とはよくぞ言つたものだ。
一体、何を考へてゐるのか。
冒頭のやうなラジオ番組での声も
あるし、かつての容共イデオロギ
ーは影を潜めたかに見える。しかしな
がらマス・メディアの裡には、国柄
否定の情動が猶も蔓延ひびつてゐると見
るのは杞憂だらうか。新元号の施行
を前に、いささか思ふところを認め
た。(元拓殖大学日本文化研究所客員教授)